

都市政策・地域経済ワークショップ 議事要旨

日時：11月8日(金)

講師：総務省地域力創造アドバイザー、内閣官房地域活性化伝道師

金丸弘美氏

議題：『自然な食と農を活かした地域活性化』

1. 公園概要

これまでの観光地は寺社仏閣など、象徴的な観光スポットのある都市に団体旅行客で訪れていたが、近年は個人旅行が増加し、地方の農村・漁村などが観光客の呼び込みに成功し注目されている。こういった観光誘客の成功事例や成功している地域の共通点について講演いただいた。

2. どこでも観光地になれる

イタリアではアグリツーリズモと呼ばれる農家民泊における農業体験と宿泊がセットになった観光スタイルで多くの観光客を呼び寄せ、農家民泊の数は日本の10倍となる23,000軒を超えており、これまでの観光スタイルに変化が起きている現在は、象徴的な観光スポットが無い地域でも観光地になる可能性があると言える。

3. なぜ観光地として選ばれるのか

イタリアのアグリツーリズモにおいては、農家民泊を実施するにあたり誘客手法や体験コンテンツ、宿泊価格など農家民泊経営に関する勉強会が実施され、勉強会に参加すると補助金が受けられるなどの制度もある。

また、地産地消にこだわり、農産物だけでなく家や家具もその地域で採れたものを採用し、地域の景観にも配慮した農家民泊の運営が求められている。また、近隣の農場やレストランと連携し、地域として観光客を受け入れる体制を構築している。

こういった努力が地域のイメージをつくり、地域の生活を体験したいと考える旅行者を呼び込むことに繋がっている。

4. 日本国内での取り組み（一例）

1) 和歌山県田辺市

田辺市が主催し「たなべ未来創造塾」を創設。地元で活躍できる他業種の人材を育成し、塾生のアイデアから事業計画を作成し実現させる。実現にあたって日本政策金融公庫などの融資を受ける事業も計画された。

「秋津野ガルデン」は、地産品の販売や地産地消のレストランに加えてフルーツ狩りや料理体験など、「食と農」を主体としたアグリビジネスで都市と農村の交流拠点施設となっている。

2) 沖縄県コザ市

米軍基地があり、かつて賑わっていた商店街の空店舗をゲストハウスにリノベーションし、食事は近隣のレストランを紹介するなど、各施設に不足しているサービスを補うことで街全

体をホテルに見立てる「トリップショットズホテル・コザ」を展開。イタリアでは1975年から限界集落の空き家を丸ごとホテルにする「Albergo Diffuso」と呼ばれる手法で誘客している。

3) 長崎県大村市

「おおむら夢ファーム シュシュ」は農家が出資して生まれた会社で、サイズや傷などの理由で商品にならない果物を、加工や調理した商品として直売所で販売することで売上を拡大。地域の農家との連携で、観光農園や農家民泊、体験教室などを実施することで町全体に50万人の集客に成功。

4) その他にも、人材が不足している地域においては、農家の手伝いをする代わりに食事と宿泊場所を提供する「Help Exchange」「Workaway」「WWOOF」と呼ばれる、体験型を好む旅行者の誘客をしているケースも見受けられる。

5. まとめ

紹介いただいた事例のように、観光客のニーズをつかみ、地域に何が不足しているかを考える中で、地域の産品や歴史・空家などの地域資源をニーズに合わせて活用方法を変えるなど、地域全体で誘客を考えることで象徴的な観光スポットの無い地域でも観光客誘客が可能になる。講義では、多くの事例を、実施されている方の声を交えてお話いただき、地域の可能性について学ばせていただいた。

□参考「金丸弘美のニッポンはおいしい！」

<http://www.banraisya.co.jp/kanamaru/yotei/yoteidetail.php?&no=768&a=2017>

以上